



# 和光の緑と湧き水だより会報 Verda214号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会は、白子大坂ふれあいの森の会と協同で会報を発行します。

作成:高橋絹世 連絡先 048-462-9912

身近な自然を知り守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

和光の緑と湧き水を一緒に守りましょう 会員募集中

## 2021年10月～12月の主な予定表 (2021年9月20日発行)

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水・ 大坂ふれあいの森 (地域の会に協力して)
10月	湧き水 探検 ワーク シート の編集	16日(第3土) 定期保全	9日(第2土) 富澤湧水フィールドワーク 20日(第3水) 大坂ふれあいの森保全清掃
11月		20日(第3土) 定期保全	13日(第2土) 富澤湧水フィールドワーク 17日(第3水) 大坂ふれあいの森保全清掃
12月		18日(第3土) 定期保全	11日(第2土) 富澤湧水フィールドワーク 15日(第2水) 大坂ふれあいの森保全清掃

### 1. カシノナガキクイムシによるナラ枯れについて調査と今後の対策

2021年夏、2020オリンピック、パラリンピック東京大会が華やかに開催されました。しかしながらコロナの流行は第5波、収束が進んでいません。会としては、今まで続けてきた活動を注意を怠らずに継続しています。

8月12日気温が平年並みの33度、樹林公園のヒロハアマナの森のアカメガシワ幼樹を刈る作業を実施、その後樹林公園のドングリの森に移動しました。ここは約20年前に子供達とドングリの苗から育てた森で、現在若い樹木も育ち安定した森になっています。しかし周囲に枯れ木が多く立ち入り禁止です。この森のコナラの木に害虫「カシノナガキクイムシ」が発見されたとの情報を、樹林公園パートナーズ石井氏から聞き、樹木の観察をしました。数か所コナラの根元に粉状のフラスが見られすでに害虫が窄入、数本のコナラに特殊な紙(かしながホイホイ)が巻かれています。カシナガが樹木の中にはいるのを止める役目があるとのこと。コナラやクヌギの大木を枯らす通称「カシナガ」は、10年程前から西日本で増え始め、数年前から埼玉県内でも増えてきたとのことです。まだ決定的な駆除方法は不明とのこと。カシナガは樹木の幹に小さな穴をあけて幹の中に入り込む。主に太いコナラに発生するとのこと。ほかのフィールドでの発生が心配です。



新倉ふれあいの森の定期保全日8月21日に観察したところすでに「カシナガ」が窄入、新倉の中央部の大木、他数本が影響されているのを確認しました。

9月3日には、和光市公園みどり課の要請で埼玉県寄居森林事務所の森林支援担当寺井麻貴氏他1名の方が新倉ふれあいの森に調査に来られ、湧き水の会も参加し、「カシナガ」の習性について詳しくお聞きしました。体長5~8ミリで樹木を枯らす病原菌「ナラ菌」を貯蔵し、5、6月ごろ幼虫から孵化してナラ菌を持って新たに健全なナラに窄入する、その後集合フェロモンを発散し、多数の成虫が集中的に窄入。このような状況では、成虫を捕虫する方法として粘着シート「かしながホイホイ」やトラップを使います。カシナガは2キロほど飛翔すること。「カシナガ」の窄入の特徴は、フラスが根元にある、カシナガの侵入の穴がある等。

9月15日被害が見つかった4本のコナラ、クヌギに、公園みどり課と協働で早速粘着シートとトラップを設置して捕虫しています。シートやトラップでなるべく多く捕虫し、広がらないようにし、5、6年のうちに収束するように繰り返し実施していく予定です。トラップは毎週1回中に入ったものを取り除く作業が必要で、交代制で継続することが必要です。ぜひ皆さんもこの作業に参加をお願いします。

この調査で新倉ふれあいの森のイヌシデの大木について、根元に腐蝕が進んでいてキノコも生えてきています。このキノコを森林事務所で調べてもらったところ、「ナラタケモドキ」と判明。このキノコは他の樹木の根に伝わり樹木の枯れを引き起こすとのこと。



ナラタケモドキが根元に生えているイヌシデの大木



寄居森林事務所寺井氏の説明を聞く    トラップ少量の水と洗剤少々を入れる    公園みどり課と協働でシート設置

## 2. 富沢湧水斜面林（白子宿特別緑地保全地区）、大坂ふれあいの森の樹木観察

富沢の急斜面で発生すると大変。そこで、早速富沢湧水での状態を見極めようと8月24日、25日現地の樹木を観察しました。上部梅林から細い道に入る角に一本クヌギがあり、点検。フラスのようでしたが、よくよく見ると泥がついて乾いた状態と判断しました。お社の奥のクヌギは変わった様子はありませんでした。



大坂ふれあいの森では、カシナガの窄入は見られませんでした。健全な森です。

今後市内の森や樹木について様々な虫やキノコなど注視していく必要があります。



### 3. 夏休みのボランティア体験：富澤湧水、新倉ふれあいの森、大坂ふれあいの森で実施、参加者の声を一部抜粋して紹介

和光市社協のボランティアセンターが中心に実施している夏休みボランティア体験会  
コロナが収束に向かいかけたかに思えた7月半ば、オリンピックが開催され、同時にデルタ株が急激に感染拡大が起きました。このような時期ですが、屋外の密にならない活動で、注意しながら実施することになりました。参加者は、身近な自然、湧き水を初めて触り冷たさを感じたり、草刈鎌を使ったり、のこぎりで竹を切ったり、初めての体験の感想を語ってくれました。一度の体験で身近にある自然の大切さ、環境についての気づきが伝わってくる参加者の声。参加者全員が今後も活動に参加し、市内にある自然を知り、それらを保全する大切さを学びたい、とのことです。会からも、若い力で多くのボランティア体験をしてもらいたいです。

公園みどり課課長補佐野口氏と中沢氏には湧水地の整備に、新倉ふれあいの森では、和光市長柴崎光子様がお出で下さり、保全活動を一緒にしていただきご協力に感謝。

8月19日 富澤湧水に参加して

1. 和光市に湧き水があるということを初めて知りました。触ってみるととても冷たく約17°で和光市の平均気温と同じだと言っていました。数年前は16.5度くらいの水温だったということで地球温暖化も進んでいるのが関係していると言っていたので、これからの生活を意識していきたいと思いました。保全活動では初めてカマを使用して草刈りをした。自然があるのにマンションとか建物が建つせいでなくなるのはもったいないと思うので残してほしいと思いました。
2. 湧水に触れ、どのような生物が生息しているのかを知ること、その湧水をどのように保護しているのかを知ることが出来ました。湧水がこんなにも冷たいこと、カニなどの生物が沢山生息していることを目のあたりにし、市内の目立ちにくい所に流れている資源の貴重さを再確認しました。草を抜いたり木を切ったりと保全活動をしたことで、大変さに気づくことが出来、自然の生命力の強さを感じました。
3. 今回は自分の近くにある自然を体験することが出来、和光の数少ない自然や湧水を見て、歴史を感じることが出来ました。この自然がどのようにできたのか今はどうなっているのかも学びました。湧水がある場所にはサワガニの小さな生き物もいたりカマキリなども見られて楽しむことが出来ました。若い人たちが積極的に取り組んで広めることによって自然が守られていくと思うので広めていきたいです。
4. ボランティアに行くのが初めてで、僕は魚や水の中の生き物が好きだからです。実際その場所に行ってみたら、魚はいませんでしたがかニがいました。湧き水には生き物がいるとは思いませんでした。実際に水を触ってみたら思っていたよりも冷たかったです。約17°Cだそうです。

8月21日 新倉ふれあいの森に参加して

5. 竹林は竹を切ったりして手入れが必要なことを教わりました。竹林は傘をさして通れるくらいのスペースを空けておくのが一番と教えてくれました。竹の太さは生えてきた時の環境によって変わるそうです。竹は百年に一度花が咲き、花が咲くとその竹林は全滅してしまうそうです。川の近くにある林や森にしか見られないハグロトンボや、クワガタなどが見れてワクワクしました。竹を切るのが初めてだったので緊張していましたが、楽しかった。竹がもらえたのでうれしかったです。
6. 8月21日土曜日に、新倉ふれあいの森でボランティア活動をしました。そこで施設内を見学して、いろいろな動植物を見ました。また竹細工体験では、実際に竹を切り、それを何等分かに分け、枝を落としました。数年前にタケノコを切ったことがあったので、それと同じように切ったら真っ直ぐに切れたので良かった。この活動で森林は定期的に整備され、大勢の人が関わっていることがわかりました。

8月18日 大坂ふれあいの森（白子大坂ふれあいの森の会 会長堀文雄氏）中学生5名参加

1. 雑草を集めたり池の手入れなどをしました。ボランティアとは物の製作、知ったことを伝承する、保全活動もすべてだと知った。自分の行動で誰かの役に立つことがうれしいと感じた。自分が出来ることの象徴がボランティアだと気が付いた。
2. 雑草を抜いたり、湧き水に棲んでいる生き物を調べたり、自然の大切さを学んだ。現在九州を中心とする所で大雨で影響が出ています。自然破壊、地球温暖化の影響です。人々が自然と共存しあっていく社会を作っていけたらいいなと思いました。
3. 活動の最初の説明で一番驚いたのは、そこにある地層が昔の火山の噴火の火山灰が積もって出来た地層だということです。こんな貴重な歴史のある自然の場所は素晴らしいなと思い、和光市のことが好きになりました。貴重な体験が出来ました。
4. 落ち葉が湿っていて重くなり大変だった。しかし落ち葉がなくなった後の道路を見てとてもすっきりした。ここは貴重な生き物や植物がある場所で、大事にすべきだと感じた。地域の人たちとの触れ合いで普段できないことを体験できた。
5. 街で何気なく通る道でも誰かが掃除をしてくれている、今回活動をしてみて、身近な所をきれいにするのは大変だった。普段このような活動をしてくれている人に感謝したいと思いました。時間があるとき一人でも友達でも誘って活動を行っていきたい。



大坂ふれあいの森で和光市の中学生ボランティア



大坂の湧き水で生き物探しサワガニ見つけた！



富澤で湧き水の仕組みを学ぶ当日参加2名も加わって



湧き水の会の参加証を渡し参加者に拍手



和光市長柴崎光子氏と参加証も渡されて新倉メンバーと



竹林で竹切体験 親子で参加

夏休みボランティア体験活動集